

要再回

法判 月 日 文書課 月 日 月 日

警保局 第三三號

警保局長

事務課長

秘書官

文書課長

娼妓が自由座業之に當り娼妓ト様主
間ノ問題ニ對シ照會察度向ハ其ノ職務
ノ執行方法ヲ設レルニ付謝罪文ヲ交付
セヨト為ス民事訴訟ニ因ルニ付

於テハ之ニ付被告等ハ民法上其ノ責ニ任
セサルモノナルノミナラス全額賠償主義
ヲ採リタル我民法ハ代理權ノ侵害ニ
付原告主張ノ如キ賠償方格ヲ認メ
サルカ故ニ原告ノ本訴請求ヲ失當
トシテ棄却スルキモノトシ民事訴訟法
第百八十九條ニ從ヒ主文ノ如ク判決シタリ

参照

第百八十九條 訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負担トス

尚原告人金井ハ控訴期間ノ最終日タル

金井ハ訴訟
法ニ依リテ
セズ

昭和十一年一月七日大阪地方裁判所

控訴シタリ

参照

第百三十三條 控訴ノ判決ノ送達アリタル日ヨリ二週
間内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス但し其ノ期ニ前
控訴提起シタル控訴ノ效力ヲ妨ケス
前項ノ期間ハ不孝期トス

右訴訟代理人

渡辺一太郎

京都府下京区七年警察署内

被告

渡辺一太郎

大阪市東区鶴野警察署内

被告

森新茂市

右訴訟代理人

園田忠花

大阪府中河内郡八尾警察署内

被告

鎌田藤

右当事者間、昭和十年四月二十九日謝冠文請求事件之付当裁判所ノ判決ニ付左如シ

本文

原告ノ請求ハ之ヲ棄却ス

訴訟費用ハ原告ノ負担トス

事實

原告ハ被告等ノ式ノ標式ニ隨ヒ用紙ハ被告等
用ヒ毛筆ヲ以テ認メ各目録名捺印シテ作成ス
此謝冠狀ヲ内務大臣及被告等後及之夫大阪府知事
及被告等安科甚二及京都府知事及被告等給米信
太郎ハ各代理人ヲ以テ之、他ノ被告等ハ自身原告
方ニ對シテ陳謝ノ意ヲ表シテ原告ニ手交ス(シ)

裁判官氏

謝 函 文

貴院カ授任ニ接セラレシ池田千鶴子嬢ノ娼妓稼業
廢業ハ婦女ノ貞操保持ト共ニ公序良俗及社会
人道上ニ於テモ歡ヲ可ナリ而テ廢業申後ニ于シ
テハ金ヲ合法的ナルニ拘テ入拙者等々如ク警察署
署長トシテ保安ノ任ニ當ル地位ニ在リ乍ラ職務
怠慢ヨリ抱主債廢業後田ノミカ情夫ノ幾西
田幸ニ取テ他ヲシテ貴院ニ付シ甘言誘惑強欲
威迫ヲ為サシメ加フルニ致シ田幸ニ取テ年カ下級
警察署署長ト情實ヲ確ヒ十數名ノ無頼ノ徒

ヲ指摺シ池田千鶴子嬢カ廢業防言ヲ避クル為
大実母宅ニ寄寓中ヲ暴カ力ヲ為ニ依リ娼子
誘拐シ内務省令娼妓取締規則ヲ六条違反
及ノ所業ニ出ルルヲ抑止シ得久點ニ或ハ間接ニ
之ヲ援ケルノ結果ヲ招來致シ貴院ノ授任ヲ為
テ蹂躪スルニ至リシハ申訳無之職務怠慢甚
敷ク帝皇政府ノ官吏トシテ慙愧ニ堪ヘ不目今
斯ル御迷惑強迫サレハ極心裁ク可キニ付御寛
容御遊度茲ニ謹シテ陳謝候

京都府七条警察署署長

渡辺一太郎所

大阪府警務警察署長

森本茂 印

大阪府人権警察署長

鎌田 藤 印

拙者等八

右三知、警務署より以上、職務ヲ管轄スルキ
地位ニ在リテカ、右吏務紀律ヲ一糸ヲ
十六条ノ旨、勵リ、ヲ懈怠ニ其ノ任務ヲ
完リセサリシ結果、貴後ニ對シ甚敷キ

高知

迷惑ヲ及シタル般、恐編ニ堪ヘズ、將來所ル
ル教令ニカ、ラシメ、事ヲ別ス、可ク候、茲ニ謹
ニテ陳謝ノ意ヲ表スル

月 日

内務大臣 後藤文夫 印

大阪府知事 安井英二 印

京都府知事 鈴木信吉 印

し、重料ノ積ニ助成

訴訟費用ハ被告等ノ負担トス、トノ判決ヲ
求メ、テ、請求アリ、因、ト、テ、原告人、人、道、上、及

宗教上ノ信念ニ盡ク多ク手廢指違動ヲ得ズ
 居ルモ一禮ヲ守ルハ其美ニシテ禮ヲ得テ文
 夫ノ内御大臣同安料其ノハ大阪府知事ノ
 同新米信太郎ハ京都府知事同渡辺一火也
 ハ七條警察署長同是ノ外長市ハ鶴橋警察
 署署長同藤田由壽ハ八尾警察署署長ノ職ニ
 在ルモノトコトハ和牛年九月二十五日京都市
 七條新地貸産教集後藤リニテ方ニ控テ
 名ヲ市丸ト名乗リ一娼妓ヲ集テ居ルハ許
 外渡田千鶴子人等々ニ對シテ許外職由也市

ト於延ヲ持テ及故娼妓ヲ業ヲ廢業ニ度ク
 之カ手續ヲ爲シ吳レ度旨依頼ニ之カ手續ニ
 付代理取付英リルヲ以テ市丸ハ市丸子
 子ニテ同月二十日ハ市丸署タル七條警察署署長
 署長被テ渡辺一火也ニ對シ娼妓ヲ録カ爲
 市丸在テ娼子ノ氏名市丸子ノ申請書ヲ提出
 セリト他面雇主訴外渡田リニニ對シテ廢
 業ノ上借取ヲ決清スル旨ノ通知ヲ持テ
 市丸至テハ禮ヲ渡辺署長ニ對シテ市丸子
 子ノ廢業ヲ應接スル旨ノ市丸子ノ代理取

ヲ莫ヘラレタル旨申出ヲクテ然レテ同月平八日
 訴外物由常々外下知訴外故田リ之ノ
 代理人トシテ示シテ其ノ子ヲ誘子一男物
 引取リテ交際シタルヲ以テ之ヲ拒絶シタルニ付
 一投難白或ハ懇懇的ニ或ハ威嚇的ニ身柄ヲ要
 求シテ止マズ且チ誘子ニ面会シ度旨申出ニテ
 夕ルヲ以テ同月三十日誘子其ノ身柄ヲ警察
 署長ニ封シテ其ノ親族ニ封スルヲ戒令一補行大
 ヲ懇請シタル上其ノ子誘子ニ封シテ訴外
 物由常々此ニ面会スヘキ旨告知シタルモノナリ



子ハ之ニ慰ムセサリシトコ口訴外西田幸三陪人訴外
 職白に示ノ母ヲシテ右記示ニ封スル其出人
 保護親手天守警署署長ニ提出セシメテ右
 敏子家署刑事池田某方拒記示ノ檢束ニ赴ク
 ニ際シ拒絶ニ付其數名人之ニ同伴シテ訴外
 物由常々此方ニ至リ同前ニ居タル子誘子
 ヲ連出サントシタルモ拒絶セラレタリシカレテ其
 同月十月二日誘子其ノ親族巡査某人右幸三
 記等ト右記外方ニ至リ子誘子ヲ連出
 シテ誘子其ノ親族内勤勤於補其ニ引渡シ

裁判所

裁判所

ルト曰右警教補八千鶴子ニ付直ニ借重ヲ
有私クヘキ旨強調シ暗ニ常ニ阻守ヲ擁護シ
又右幸三郎等八千鶴子ニ付所外後由リ
ニ才ニ歸ルルキトテ说得シテ是千鶴子ハ頑強ニ
之ヲ拒ミタリ然ルニ右警部補力退席シタ
ル際千鶴子力警署署長ヨリ戸外ニ出ツルヤ
訴外西田峰大匠外一名八千鶴子ヲ豫テ同
意シ果ニキルル自働車ヲ二把キ込ニ後掃セシ
トシタルモ訴外職自記市及警長ニ阻止セラレタ
ノ目的ヲ達スル再ヒ一同警署署内ニ入りタルニ

巡查部長田中某八千鶴子ニ借重ノ返答ヲ
迫ルヨリ至今八年獲士ヲ同伴ニテ出頭ニ
交渉ノ上千鶴子ハ此等事歸答スルヲ得タ
ルカ右各警署長友ノ偏袒ナルヲ部人畢
意右警署署長タル被テ素々各署長力
各一職務ヲ懈怠ニ適当ノ取締ヲ為サザリ
ニ其因不而シテ其ノ後引續キ交渉ヲ重ク
ル内訴外山崎淳ヲ八千鶴子ノ為テ盡力ニ
居ルル訴外吉川一四七ニ付テ室教報込ト記
入セル被テ録白八尾警署署長ノ名刺ヲ

示之千鶴子之村和強固ナル態度ヲ示之夕
此方折ル名刺ヲ交付シタルニ付テハ被考鎌
田署長ニ職務懈怠ニ責アリトテ折リテ交
涉スルニ纏付カズ被考渡辺七郎署長署
長ハ此ノ職務ヲ怠リテ娼妓等殊ニ汚
リテ千鶴子ノ氏名ヲ削除スル之ヲ遷延スル
同年十月十日付折付書ヲ示シテ此ノ外敷
名卜共ニ許外思ハ其意ハ正ニ乱入シ
同敷ニ居タル千鶴子ヲ奪取シ自勤車ニテ
許外渡辺ヨリ三才ニ移掃シテ以上叙述

如ク原告ハ被考渡辺兼永及鎌田ノ名署
長カ此ノ署名署長トシテノ職務ヲ懈怠
シタル爲メ千鶴子ヨリ娼ヘテタル娼妓等
業廢業ニ関スル代理取ヲ侵害セラルルニ至
リタルカ故信書ヲ爲メ人ノ力造我ハ任セテ
此被考安井大政府秘書同勤車等教
府秘書及被考渡辺爲田秘書長カ此
ノ職務ヲ懈怠シテ折付ノ署名ヲ怠リタル
事ニモ甚固スルカ故ニ被考等ハ執レモ其
等ノ代理取ヲ侵害セラルル事付其ノ責

二件在サハカ力人仍于、被告等之辯論請求ノ
趣旨記載ノ如キ謝罪状ノ交付ヲ求ムル特
人本訴ニ及ヒタリト陳述シタリ

被告鈴木信太郎訴訟代理人被告渡
辺一古江被告杉永茂市訴訟代理人及
被告鎌田將信ノ故ニモ原告ノ請求ハ立テ棄却
ストノ判決ヲ示シ答弁トシテ被告等力官署ニシテ
原告主張ノ如キ官職ニ在ルトハ之ヲ認ムルモ
其ノ他、原告主張事實ハ不知ト述ベタリ
被告後持文夫被告安井真三ハ本件ハ

頭弁論期白ニ出頭ス

理由

掲ノ如キ以テ更ニ之ヲ夫レ原告ノ主張ノ
如キ官職ニ在ル、被告等力假ニ原告ノ主張ノ
如ク其ノ職務ヲ懈怠シ原告ノ代理权ヲ
侵害シタリトスルモ我法利ニ於テハ之ヲ被
告等ハ民法上、其ノ責ニ付セサルモノトシテ
又金錢賠償ノ義ヲ得ルハ我民法ハ
代理权ノ侵害ノ付原告ノ主張ノ如キ賠償
大法ヲ認メサルハ故ニ原告ノ本訴請求ハ

裁判川紙

裁判所

大阪區裁判所

大阪市北區若松

電話北〇二〇九〇番(書記部)
〇二〇九〇番(調停部)

十保第五五二號

昭和十年十二月廿八日

京 都 府 知 事

内務省 警 保 局 長 殿

官吏ニ スル 告訴 事件ニ 關スル 件

昭和十年十月廿六日大阪市東成區北生野町一丁目六十番地住居
從后方金井繪之助(明治卅五年八月四日生)ハ原告トナリ内務大臣
後援文天大阪府知事安井英二京府知事給本府本部京府知事七條
署長渡邊一太郎大阪府編給警署長森永茂市八尾署長長濑田將ヲ
被告トシテ「娼妓ノ嚴禁勸告ニ伴フ附文請求之件」ヲ提起サレ
昭和十年十二月十三日大阪區裁判所ニ於テ口頭辯論アリ昭和十
二月十六日「原告ノ請求ハ之ヲ棄却ス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス」

トノ判決有之レガ當府ニ於ケル關係部分左記ノ如キ狀況ニ有之此段
及報告候也

記

原告ノ主張ハ被告七條警察署長ハ原告ガ代理權ヲ以テ池田千鶴子ノ
廢業ニ關シ最モ合法的且機宜ヲ得タル方法ニヨリ提出シタル申請書
ヲ受理シ乍ラ徒ラニ娼妓名簿削除ノ完了ヲ遲延シタレバ樓主後田ソ
ミガ情夫西田幸三郎其他ヲシテ下級警察署員ト情實ヲ齎結ビ原告ニ對
對シ強談威迫ヲ爲シ或ハ徒黨ヲ組ミ暴力行爲ヲ敢テ爲シ池田千鶴子
ノ人權ヲ蹂躪シ國法ヲ無視シ壇ナル振ル舞ヒニテ原告ノ代理權ヲ完
全ニ蹂躪シ娼妓取締規則第六條違反ヲ敢行スル機會ヲ與ヘタリ
被告京都府知事ハ右ノ監督ヲ完行セザルニヨルナリ
ト謂フニアリ之ニ對シ本職及七條警察署長ハ左ノ如キ答辯ヲ爲シタ
リ
昭和十年九月廿五日池田千鶴子ヨリ委任ヲ受ケタル娼妓稼業廢業ニ

付登録名簿削除方ノ申請ハ天王寺郵便局取扱昭和十年九月廿六日
 第二一九號書留内容證明郵便トシテ全年九月廿七日七條郵便局ヨ
 リ配達ヲ受ケタル點ハ之ヲ認ムルモ其ノ余ハ之ヲ否認ス即チ娼妓
 名簿削除取扱ニ關シテハ娼妓取締規則第五條ニ明記スル如ク娼妓
 自カラ出頭シテ之ヲ爲スヲ原則トシ申請書郵送アリタル場合ハ申
 請者自カラ出頭スルコト能ハザル事由アリト認ムルトキニ限り受
 理セラルベキモノニシテ當府ニ於テハ娼妓保護ノ立場ヨリ事由認
 定ノ資料トシテ申請者居住地所轄官公署ニ照會スルヲ常トス依テ
 本件ニ關シテモ九月廿八日書類收受ト共ニ九月卅日（月曜日）池
 田千鶴子居住地管轄天王寺警察署ニ對シ事實調査方照會シタル處
 十月九日住所不明ノ爲調査不能ノ回答アリ更ニ十月十一日再照會
 シタルニ十月廿二日所在不明調査不能ノ旨回答アリタリ然ルニ十
 月廿三日池田千鶴子ハ樓主後田ソミ内縁ノ夫西田幸三郎ト共ニ七
 條警察署ニ出頭シ十月十四日歸樓シ廢業ハ本名ノ眞意ニ基クニ非
 ストノ事由ノ許ニ申請書取下願ヲ提出シタルヲ以テ之ヲ受理シタ

京都府

付登録名簿削除方ノ申請ハ天王寺郵便局取扱昭和十年九月廿六日
 第二一九號書留内容證明郵便トシテ全年九月廿七日七條郵便局ヨ
 リ配達ヲ受ケタル點ハ之ヲ認ムルモ其ノ余ハ之ヲ否認ス即チ娼妓
 名簿削除取扱ニ關シテハ娼妓取締規則第五條ニ明記スル如ク娼妓
 自カラ出頭シテ之ヲ爲スヲ原則トシ申請書郵送アリタル場合ハ申
 請者自カラ出頭スルコト能ハザル事由アリト認ムルトキニ限り受
 理セラルベキモノニシテ當府ニ於テハ娼妓保護ノ立場ヨリ事由認
 定ノ資料トシテ申請者居住地所轄官公署ニ照會スルヲ常トス依テ
 本件ニ關シテモ九月廿八日書類收受ト共ニ九月卅日（月曜日）池
 田千鶴子居住地管轄天王寺警察署ニ對シ事實調査方照會シタル處
 十月九日住所不明ノ爲調査不能ノ回答アリ更ニ十月十一日再照會
 シタルニ十月廿二日所在不明調査不能ノ旨回答アリタリ然ルニ十
 月廿三日池田千鶴子ハ樓主後田ソミ内縁ノ夫西田幸三郎ト共ニ七
 條警察署ニ出頭シ十月十四日歸樓シ廢業ハ本名ノ眞意ニ基クニ非
 ストノ事由ノ許ニ申請書取下願ヲ提出シタルヲ以テ之ヲ受理シタ

二月十六日「原告」被告ハ五ノ控訴ニ對シテ出ハ報告ハ於テハ一
昭和十年九月廿五日池田千鶴子ヨリ委任ヲ受ケタル娼妓稼業廢業ニ
及報告候也

官廳ニ對スル書牘事件ニ關スル報告書

昭和十年九月廿五日

京 都 府

十 九 日 廿 五 日

京 都 府

トノ判決有之レガ當府ニ於ケル關係部分左記ノ如キ狀況ニ有之此段
及報告候也

記

原告ノ主張ハ被告七條警察署長ハ原告ガ代理權ヲ以テ池田千鶴子ノ
廢業ニ關シ最モ合法的且機宜ヲ得タル方法ニヨリ提出シタル申請書
ヲ受理シ乍ラ徒ラニ娼妓名簿削除ノ完了ヲ津延シタレバ樓主後田ソ
ミガ情夫西田幸三郎其他ヲシテ下級警察署員ト情實ヲ露結ビ原告ニ
對シ強談威迫ヲ爲シ或ハ徒黨ヲ組ミ暴力行爲ヲ敢テ爲シ池田千鶴子
ノ人權ヲ蹂躪シ國法ヲ無視シ壇ナル振ル舞ヒニテ原告ノ代理權ヲ完
全ニ蹂躪シ娼妓取締規則第六條違反ヲ敢行スル機會ヲ與ヘタリ
被告京都府知事ハ右ノ監督ヲ完行セザルニヨルナリ
ト謂フニアリ之ニ對シ本職及七條警察署長ハ左ノ如キ答辯ヲ爲シタ
リ
昭和十年九月廿五日池田千鶴子ヨリ委任ヲ受ケタル娼妓稼業廢業ニ

付登録名簿削除方ノ申請ハ天王寺郵便局取扱昭和十年九月廿六日
第二一九號書留内容證明郵便トシテ全年九月廿七日七條郵便局ヨ
リ配達ヲ受ケタル旨ハ之ヲ認ムルモ其ノ余ハ之ヲ否認ス即チ娼妓
名簿削除取扱ニ關シテハ娼妓取締規則第五條ニ明記スル如ク娼妓
自カラ出頭シテ之ヲ爲スヲ原則トシ申請書郵送アリタル場合ハ申
請者自カラ出頭スルコト能ハザル事由アリト認ムルトキニ限り受
理セラルベキモノニシテ當府ニ於テハ娼妓保護ノ立場ヨリ事由認
定ノ資料トシテ申請者居住地所轄官公署ニ照會スルヲ常トス依テ
本件ニ關シテモ九月廿八日書類收受ト共ニ九月卅日(月曜日)池
田千鶴子居住地管轄天王寺警察署ニ討シ事實調査方照會シタル處
十月九日住所不明ノ爲調査不能ノ回答アリ更ニ十月十一日再照會
シタルユ十月廿二日所在不明調査不能ノ旨回答アリタリ然ルニ十
月廿三日池田千鶴子ハ樓主後田ソミ内縁ノ夫西田幸三郎ト共ニ七
條警察署ニ出頭シ十月十四日歸横シ廢業ハ本名ノ真意ニ基クニ非
ズトノ事由ノ辭ニ申請書取下願ヲ提出シタルヲ以テ之ヲ受理シタ

ルモノニシテ被告渡邊一太郎ハ何等故意又ハ過失ニヨリ原告ニ對シ代理權行使ヲ妨ゲ娼妓取締規則第六條違反ヲ敢行スル機會ヲ與ヘタルコトナシ從テ被告鈴木信太郎ハ官吏職務規律ニ違背セズ依テ原告ノ請求ニ應ズルヲ得ズ

日	月
第	第
第	第
第	第
第	第
第	第
第	第
第	第
第	第
第	第
第	第
第	第

大改市車成区北生野所一丁目二十四番
 地岡野理髮者方金井鐵之助ヨリ
 内務大瓦外五瓦ヲ被告トシテ標記
 紳、商、謝罪文交付請求本訴
 大改區裁判所提起後原被告ノ
 其ノ理由由ハ同文判所口頭弁論被告逆通告有之
 一、京都市七條新地地直産系幸樓後
 田ソミ方ニ於テ娼妓稼業中ノ
 市丸コト田中千鶴子が鐵田四市
 ナル者ト家庭ヲ撐ツ為廢業ニ因リ
 昭和十年九月二十五日原告金井鐵
 之助ヲ訪問シ其ノ終原告方ニ宿

伯ニ

二、翌二十一日原告方ニ於ケル千鶴子ハ七條
 警察署長ニ對シ廢業届ヲ及樓主
 後田ニ對シ自己ノ動産ノ処分其ノ地
 前借金ニ對シ相談ヲ原告金井鐵
 之助ニ委任シタル日、各内容証明郵便
 ヲ郵送シタリ
 三、然ル所九月二十八日樓主後田ソミハ自己
 ノ情夫西田幸三郎及同人ノ弟西田峰太
 郎ノ二名ヲ代理人トシテ原告金井方ニ千
 鶴子ノ引換交渉ニ來タレルモ原告方之ヲ拒絶
 セリ
 更ニ二十九日再び兩名原告方ニ來タリ千鶴子

二面會サセ口ト稱シ強説威迫せんヲ以テ原告
ハ明三十日會ハセトレテ兩名ヲ立去ラレシ

四、原告ハ西田等が千鶴子ノ辱業妨害ヲ患レ
千鶴子及織田ヲ千鶴子ノ実母宅タル岡林
理繁方ニ伴ヒ寄過セシム

而レテ同時、吉リ正セ、情ヲ明シ鶴橋署
察署ニ豫戒令執行方ヲ懇請シタリ

五、其後西田兩名ハ岡林方ニ来タリ夜ヲ
明シ申又岡林嘉太郎ノ身辺ニ追隨シ
或ハ種々ノ甘言ヲ弄ムコトアリ依テ原告ハ

コレハ西田等が原告察署多ト情実關係ヲ
結ビ辱業妨害ヲおスヤトノ感ヲ抱ケリ

果シテ元大政村ノ警察官タリシ者二名ヲ以テ
落シテ而レテ運動シ以テ天王寺警察署
員防犯刑事池田某ヲシテ織田四市ヲ
檢束スルニ至ラシメ而モ其ノ連行ニ際シテハ
一名ハ恰モ警察官ノ如キ振舞ヲ有セリ
右檢束ノ處ニ業ジ西田兩名ハ千鶴子ノ身柄
略奪ヲ企ツルニ未遂トナレリ

六、十月二日鶴橋警察署生理所此出所詰問
査某ハ樓並側ノ西田兩名及山脇厚三ノ三名
ト共ニ岡林方ニ来タリ千鶴子ノ連行ヲ告ケ
タルニ依リ依テ実母附居ニ千鶴子ハ同派出
所ニ連行ハシ更ニ鶴橋署ニ連行セラル、
而レテ内勤警部補某ニ引接サル

警部補の傍金ヲ拂フカ、京都、帰ルカト暗
 ニ樓主側ヲ擁護せんニ千鶴子カ之ヲ拒ミ
 せんカ、おらん、お前達双方、話合ワテ良イ
 様ニセヨト云フ引揚（金母アリ）
 同日午紅五時頃千鶴子（金母アリ）川外ニ出テせん所
 西田等ノ準備シアリせん白筋東ニテ千鶴子控
 奪ヲ試ミせんカ署内ニテ署員ニ事タリ之ヲ止ム
 コレヨリ一同署内ニ入り、傍直部名田中某双方
 ノ意見ヲ聴ク新獲ニ努メせんカ纏テ、千鶴子等
 同日午紅十時頃、各事ノ帰電ヤ
 以上ノ如ク樓主側ノ千鶴子、控奪ニ由リ暴力
 ヲ以テ略取セトスル理行カ、ニ対シ何等ノ措置ヲ
 講セザルノミナラズ、警部補等署員ノ言動正當ノ

玉情ヲ執行シ、カ、非カ、尚八尾警部部長
 ノ「宜君頼ム」ト記セム山脇三組、
 如キモ、斯ノ如キ悪人ヲ扱フレムカ、不穩當ナリ、
 以上ノ事實ハ、監視ノ他、カ、内務大臣ハ、官土服
 務規律カ、一條カ、十六條ヲ解シ、
 認ムル、他カ、原告ニ対シ、謝罪文ヲ交付セヨ
 ト云フ、カ、
 本件大改新警部警察署ニ於ケル取扱ハ、同
 署ノ樓主側ヨリ逃走ノ申入レアリタルヲ以テ一
 應、事實ヲ調査シ、
 輩ニ南聯スル問題ナリ、
 立入ラズ、話合ノ上、
 論シタルニ止リ、原告ノ主張、
 詩大ニ失ス、尚

官吏服務規律

(明治三〇年七月
勅令第三九號)

第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下又天皇陛下ノ政

府ニ對シ中心順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ

各其義務ヲ盡スヘシ

第十六條 凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬

官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ



區域 内ニ在ラサル者ハ之ヲ訓吉スルコトヲ務ム

ハシ若シ懲戒處令ノ要ムト認ムルトキハ事状ヲ

具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其ノ情ヲ知り隱

蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レス

附 務 省

娼妓取締規則

(明治三十三年一月
内務省令第四號)

第六條 娼妓名簿削除申請ニ關シテハ何ハト

雖妨害ヲ為スコトヲ得ス

第五條 娼妓名簿削除申請ハ書面又ハ口頭ヲ

以テスヘシ

前項ノ申請ハ自ラ警察官署ニ出頭シテ之

附 務 省

一、爲マニ非サレハ受理セサルモノトス但シ申請書ヲ郵送シ又ハ他人ニ託シテ之ヲ差出ス場合ニ於テ警察官署カ申請者自ラ出頭スルコト能ハサル事由アリト認めルトキハ此ノ限ニ在ラス
 警察官署ニ於テ娼妓名簿削除申請ヲ受理シタルトキハ直ニ名簿ヲ削除スルモ、トス

娼妓取締規則施行ニ付執行方心得

大政社
 明治三十三年十月
 訓保第二四號

一、娼妓ヲ寄寓セシムル者ハ勿論其ノ他何人ト雖モ娼妓名簿削除申請ニ關シテハ方法ノ如何ヲ論ヒス一切妨害ヲ爲スコトヲ許ササルヲ以テ違反者アルトキハ罰則ヲ適用セラルヘキハ論ヲ俟タス必要ノ場合ニ於テハ當業者ニ對シテハ業務ノ禁停止

無頼者ニ對シテハ豫戒令ヲ執行スル等臨機ノ措置
ヲ行フコトアルヘシ

247

民事訴訟法

第八十五條 裁判所ハ判決ヲ爲スニ當リ其ノ爲シタル口頭辯論ノ全趣旨及證據調ノ結果ヲ斟酌シ自由ナル心證ニ依リ事實トシテ主張ヲ眞實ト認ムヘキカ否ヲ判斷ス

第二百五十三條 當事者カ期日ニ出頭セス又ハ前條ノ規定ニ依リ受命判事ノ定メタル期間内ニ準備書面ヲ提出セサルトキハ受命判事ハ準備手續ヲ終結スルコトヲ得

第二百五十五條 調書又ハ之ニ代ルヘキ準備書面ニ記載セザル事項ハ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得ス但シ其ノ事項カ裁判所職權ヲ以テ調査スヘキモノナルトキ、著ク訴訟ヲ遲滯セシ

内務省

規格外

裁判所ハ必要ナル調査ヲ官廳若ハ公署、外國ノ
官廳若ハ公署又ハ學校、商業會議所、取引所其ノ他ノ團體ニ囑
託スルコトヲ得
第三百三十八條 當事者カ正當ノ事由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ
宣誓若ハ陳述ヲ拒ミタルトキハ裁判所ハ訊問事項ニ關スル相手
方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得
第三百五十二條 區裁判所ノ訴訟手續ニハ別段ノ規定アル場合ヲ
除クノ外前章ノ規定ヲ準用ス

第二百六十二條

裁判所ハ必要ナル調査ヲ官廳若ハ公署、外國ノ
官廳若ハ公署又ハ學校、商業會議所、取引所其ノ他ノ團體ニ囑
託スルコトヲ得

第三百三十八條

當事者カ正當ノ事由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ
宣誓若ハ陳述ヲ拒ミタルトキハ裁判所ハ訊問事項ニ關スル相手
方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得

第三百五十二條

區裁判所ノ訴訟手續ニハ別段ノ規定アル場合ヲ
除クノ外前章ノ規定ヲ準用ス

規 格 B. 5.

職務上ノ行爲ニヨル損害賠償責任
大審院一故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタルモノハ
身分ノ官吏タルト否トヲ問ハス民法第七〇九條ニ依リ損害賠償
ノ責ニ任スヘキコトハ論ヲ俟タサルモ官吏ノ一私人ニ加ヘタル
損害ニシテ職務執行ニ因リテ生シタルモノニ非サルトキハ格別
苟モ官吏ノ職務執行ニ付加ヘタル損害ナル以上ハ之レカ賠償責
ニ任スヘキモノニ非ス(明治三九年五月一四日判決)

職務上ノ行爲ニヨル損害賠償責任

(一)判例

大審院一故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタルモノハ
身分ノ官吏タルト否トヲ問ハス民法第七〇九條ニ依リ損害賠償
ノ責ニ任スヘキコトハ論ヲ俟タサルモ官吏ノ一私人ニ加ヘタル
損害ニシテ職務執行ニ因リテ生シタルモノニ非サルトキハ格別
苟モ官吏ノ職務執行ニ付加ヘタル損害ナル以上ハ之レカ賠償責
ニ任スヘキモノニ非ス(明治三九年五月一四日判決)

大阪控訴一官吏カ公法上ノ行爲ニ關シ故意又ハ過失ニ因リテ一
私人ニ被ラシメタル損害ヲ賠償スル責任アル場合ハ法ニ明定シ



（明治三十八年一月二十九日法律新聞）
東京地方一官吏カ國家ノ機關トシテ其ノ職務ヲ行フニ當リ故意
又ハ過失ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタリトスルニ法令ニ特別ノ
明文ナキ以上ハ官吏ニ於テ其損害ヲ賠償スヘキ義務ナキコト我
現行法制上疑ヲ容レサル所ナリ（大正四年判決）

アル場合ニ限ルモノトス（明治三十八年一月二十九日法律新聞）

東京地方一官吏カ國家ノ機關トシテ其ノ職務ヲ行フニ當リ故意
又ハ過失ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタリトスルニ法令ニ特別ノ
明文ナキ以上ハ官吏ニ於テ其損害ヲ賠償スヘキ義務ナキコト我
現行法制上疑ヲ容レサル所ナリ（大正四年判決）

甲府地方一國家又ハ公共團體ノ吏員カ其職務ノ範圍内ニ於テ爲
シタル處分カ偶々個人ノ權利ヲ侵害シ只處分カ結果ヨリ見テ違
法不當ノ點アリトスルモ之ヲ目シテ毎ニ不法行爲ナリト論斷ス
ルコトヲ得ス之ヲ不法行爲ナリト爲スニハ法令ニ特別ノ規定ナ

東京地方一官吏カ職務上爲シタル行爲ニ因リ他人ニ損害ヲ加フ
 ルモ右損害カ官吏ノ故意ニ基カサル以上結局國家自體ノ不法行
 爲ニ基因スルモノナルカ故ニ特別ノ明文ナキ限り官吏個人ハ損
 害ヲ蒙リタル他人ニ對シ直接ニ責任ヲ負フコトナキモノト解ス
 ヘク官吏力之カ爲メ刑法上ノ責任ヲ負擔スルト否ト又國家カ公
 法上ノ關係ニ於テ爲シタル場合タルト私法上ノ關係ニ立チタル
 場合タルトヲ區別スルコトナルモノトス（大正一一年一〇月二
 四日）

(二) 學說

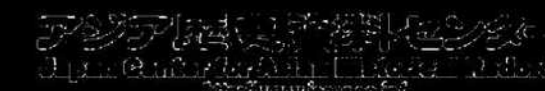
清水博士一官吏ハ國家ノ統治者ノ機關トシテ其職務ヲ行フモノ

官公吏ノ職務上ノ行為ハ官吏自身ノ私ノ行為ニアラ
 スシテ國家統治者ノ行為ナリ從ツテ其行為ニヨリ第三者ニ損害
 ヲ與フルモ特別ノ明文アル場合ノ外官吏自身ニ於テ其責任ヲ擔
 任スヘキモノニアラサルナリ（行政篇上ノ上六七七）

ナレハ其ノ權限内ノ職務上ノ行為ハ官吏自身ノ私ノ行為ニアラ
 スシテ國家統治者ノ行為ナリ從ツテ其行為ニヨリ第三者ニ損害
 ヲ與フルモ特別ノ明文アル場合ノ外官吏自身ニ於テ其責任ヲ擔
 任スヘキモノニアラサルナリ（行政篇上ノ上六七七）

横田博士「官公吏ノ行為カ不法行為ヲ構成スルヤ否ヤハ一ニ其
 ノ行動カ職權内ノ行為ニ屬スルヤ否ヤニ依リテ定マルモノニシ
 テ其ノ行動カ苟モ其職權ノ範圍内ニ止マルニ於テハ其當否ノ如
 何ニ拘ハラス民事上無責任ナリトス」

行政法規カ官公吏ノ職權ノ行使ヲ其自由裁量ニ任セタル場合ニ
 於テハ官公吏カ其行為不行爲ニ因リ私人ニ損害ヲ被ラシムルモ



不法行為ヲ構成スルコトナシ（債權各論八五三）

内務省

規 格 B. 5.

Table with multiple columns of text, likely a list or index. The text is small and difficult to read, but appears to be organized in a structured manner.

國家ノ賠償責任

(一) 判例

大審院一縣知事ノ職務上ノ過失ニ付テハ國家ハ損害賠償ノ責任セス（明治二九年四月三日付）

長崎控訴一官吏カ國家ノ機關トシテ公法的行爲ヲ爲スニ當リ故意又ハ過失ニ因リ一私人ニ損害ヲ蒙ラシムルコトアルモ法令ニ特別ノ明文アル場合ノ外國家ハ私法上ノ責任ヲ負ハサルヲ原則トス（明治四一年五月一五日）

(二) 學說

內務省

番 99

同 9
70 11 20

期 日 呼 出 狀

後藤文夫 殿

原告 金井鐵之助

被告 後藤文夫 外五人

右當事者間ノ昭和十年(ハ)第二九九二號 米芝

謝罪文

事件ニ付口頭辯論期日ヲ昭和

十年五月十三日午前十時卜定メラレ候間當廳

第三號 法廷ニ出席可相成候

昭和十年十一月二十一日

區裁判所第六民事部

裁判所書記 吉川武雄

本件ニ付差出ス書面ニハ部名年度及記録號ヲ記載セラレベシ
出頭ノ節ハ此ノ呼出狀ヲ差出サルベシ

局保警 10.11.26火

kpff

目

後藤文夫

十一、二十一

十一、二十三

十一、二十五

十一、二十五

杉本文夫
金井燦之助

副本

訴狀

大阪市東成区生野町壹丁目
方千四番地

岡林理髮店方

原告 金井鐵之助

明治三十五年八月四日生

京都市内務省内

被告 後藤文夫

京都市大寺前府廳内

被告 安井英二

京都市京都府廳内

被告 鈴木健太郎

大

京都市下京区七條警察署内

被告 出告 地方警視 清田一太郎

大坂市東成区鶴橋警察署内

被告 出告 地方警視 森永茂市

大坂市外 八尾警察署内

被告 出告 警部 鎌田 蔣

訴 名

一、娼妓、廢業防害ニ伴フ謝罪文請求之訴

訴 的

一、請求之趣旨通り

請求之趣旨

被告各々ハ左ノ謝罪文様式ニ隨ヒ用紙ハ

亦業印

奉書ヲ用ヒ毛筆ヲ以テ認メ各自署名捺印シ上
被告ハ務大臣及知事ハ各々代理人ヲ以テ被告
署長各自ハ自ら原告ニ對シ本判決確定後、
十四日以内ニ交附スベシ

(謝罪文様式)

謝 罪 状

貴殿が授任應援セラレシ池田千鶴子殿ノ
娼妓稼業廢業ハ婦女ノ貞操保持ト共ニ
公序良俗及社會人道ニ於テモ歎ズ可ナリ
兼而テ廢業申請ニ関シテハ全ク合法的ナルニ
拘ラズ拙者等各々警察署長トシテ保安、
任ニ當レ地位ニ在リ乍職務怠慢ヨリ抱主

貸度敷業後 田ノミカ情夫、西田幸三郎
 其他ヲシテ 貴殿ニ對シ甘言誘惑 強談威迫
 ヲ為サシメ 加フルニ該西田幸三郎等ガ下級
 警官察署員ト情実ヲ結ビ 十数名ノ無賴ノ
 徒ヲ指揮シ 池田千鶴子殿ガ 廢業防害ヲ
 避クル爲メ 實母宅ニ寄寓中ヲ 暴力行爲
 ニ依リ 略手誘拐シ 内務省今 娼妓取締規則
 第六條違反ノ 所業ニ出ツルヲ 抑止得ズ 黙
 過シ 或ハ間接ニ之ヲ 援クルノ 結果ヲ 招来致シ
 貴殿ノ 授任行爲ヲ 蹂躪スルニ至リシハ 申譯
 無之職務怠慢モ 甚敷ク 帝國政府ノ 官
 吏トシテ 漸愧ニ堪エズ 自今斯レ 併送 或ハ
 事案印

繰返サレ様心掛ク可キニ付 忝寛容被遊度
 茲ニ謹シテ 陳謝候
 京都府七條 敬言察署長 (印)
 天取府鶴橋 敬言察署長 (印)
 天取府八尾 敬言察署長 (印)
 右三名、敬言察行正上ノ職務ヲ 監督スベキ地
 位ニ在リテ 官更服務紀律第一條第
 十六條ノ 主旨 勵行ヲ 懈怠シ 其ノ 任務ヲ 完
 独者等ハ

行セザリシ結果貴殿ニ對シ甚敷キ迷惑
ヲ及シタル段恐縮ニ堪不ズ 將來斯ル不
都合無カラシメン事ヲ期ス可ク云
茲ニ謹ンデ陳謝、意ヲ表シ候

月 日

内務大臣 後 藤 文 夫 (印)

大坂府知事 氏 名 (印)

京都府知事 氏 名 (印)

金井鐵之助殿

前記、謝罪文ヲ原告金井鐵之助、居住所ニ
到リ陳謝、意ヲ表シ手交スベシ
訴訟費用ハ被告ノ負担トス

本業印

トノ御判決ヲ求ム

請求之原因

(一) 原告ノ自ニ訴外池田千鶴子ガ昭和十年
九月二十五日午後五時頃訪問シ自ニカ京都市
七條新地貸座敷業後田ノミ方ニ於テ姓名
市丸ト名乗リ娼妓稼業中ナル日ヲ打明レ日増
ニ病弱トナリ同業續行スルノ苦痛ヲ訴エ同
行ノ織田四市ナレ青年ガ滿洲ヲ單功ヲ立テ
勳章ヲ戴イタ心ノ正シイ青年ナレハ家上庭
ヲ持テ身モ心モ修メテ暮ス 正シイ生活ヲ致シ度
キナレバ娼妓稼業廢業ヲ希望スル旨ヲ述ヘテ
ル上助カ方懇請セリ。

原告訂正

被告訂正

(一) 原告ハ人道上及宗教上、信念ニ基キ公娼廢止ヲ希望シ生活ノ傍ヲ十數年前ヨリ常ニ執意ヲ以テ、廢娼運動ヲ續ケ居ル者ナリ、隨ツテ池田千鶴子ヨリ、前記ノ如ク廢業方ノ助力銀心請受ケルニ及添附甲第壹號証字ノ委任ニヨリ娼妓登録名簿削除申請(所謂自由廢業)ノ準備行爲其他ヲ代理実行ヲ致シタリ。

(二) 原告準備ノ下ニ池田千鶴子ハ昭和十年九月三日百稼業地所轄署タル被告七條警察署長ニ添附甲第貳號証字ノ如ク娼妓登録名簿ノ削除ヲ求メ抹消方ノ申請ヲ提出シ次テ利害関係人タル訴外後田ノミニ對シテモ添附甲第參

事業印

証字ノ如ク債務履行方ノ意思表示ヲ爲シタリ、原告モ昭和十年九月廿七日代理權限内屬スル甲第肆號証字ノ如ク、意思表示ヲ爲シ事安ヲ分明ニスルガ爲メ被告七條警察署長ニ對シテモ甲第伍號証字ノ内容ヲ通知シテ、行政事務ノ便宜ナルニ届出ヲ爲シタリ。

(四) 右ノ如ク池田千鶴子ハ原告代理ノ下ニ廢業ニ関スル申請ヲ公明正大且合法的ニ之ヲ行ヒ只警察大阪府令娼妓取締規則執行方第九項ノ要置方ヲ待テ居タリ。

(五) 原告エ昭和十年九月廿日午前十時頃訴外後田ノミハ情夫ノ西田幸三郎及同人弟峰太郎ノ二名

代理人トシテ池田千鶴子ノ身柄ヲ引渡方ノ文
涉ニ来タル原告ハ之ニ應ゼズ及對ニ債務ノ精
算方ヲ切マリシモ許外人兩名ハ債務ヲ取リニ来タ
ルニ非ズト意ニ據ケズ身柄引渡シテ執念深ク
切マリ原告斷固トシテ之ヲ拒絶スレバ西田
峰太郎ハ現場ニ居合シタル原告ノ知人菅
根常治ヲ近隣ノ飲食店ニ誘ヒ去レ

如ク手渡シテ呉レバ金ニ百兩提供スル故
金井氏ヲ君カラ説得シテ呉レバ云々ト誘惑
ヲ賦シ西田幸三郎ハ原告ニ向ンテ同様多分
ノ謝禮ヲスルヨリ池田千鶴子ヲ引渡サレ度シト
言語ヲ盡シ繰返シ終日ヘタリ迄ニ漸ク午後

亦業印

十二時頃兩名原告宅ヲ立去リタリ

(六) 翌日二十九日午後兩名再ハ原告ヲ自宅ニ訪問

シテ西田幸三郎ハ前日ニ比シ能心度一変シ威嚇的ニ
お前が女を渡さず俺の顔を立てぬれば天
夜の親分衆は皆俺の若い時分の兄弟分
や身内を南であらうが世であるうが俺
が頼めばとんぶ事も仕て呉れる、お前が
飲くまで俺は有衝くと為めにたあらぬを
俺の方にはオハオニオ三と女を連れて
行く手筈も出来て居るのを俺の為め
にはクビになつても構わぬ奔走して
遣ると仰せある人もあるんが云々ト暴言ヲ

吐キ着物ノ裾ヲ捲リ、御前ヲ組ミネル地ノ腰
巻ヲ現ハシ更ニ

此の西田は一寸骨もあれば腹もある男薄へ
柳事事を云ふがごとくして俺の顔を立て
ぬと云ふなら考へがあるぞト覗き付け
虚勢ヲ示シテ原告ヲ威迫シ

自由産業應援するを以て真似をする
と暴力團で話をり込ませ山等去鯉目
ヲ放言セリ傍ラニ居タル西田峰太郎ハ此
原告ニ向テ曰ク

兄貴モ態々京都カラ女ヲ迎ヘニ来テ本人
(池田千鶴子)ニモ會ヘズ腹ヲ立テ、居ルハダカラ

亦業印

女ト此處デ會ハシテ吳_山申出デタリ

原告ハ本人千鶴子ハ絶對面接ヲ拒絶シテ吳_山ト
云フテ居ルガ明_三十日會見セシムル様努力仕様ト告
ケ漸ク兩人ヲ去ラシメタリ

(七) 原告ハ池田千鶴子及織田四市ヲ昭和十一年九月三
十日千鶴子ノ実母宅タル大阪市東区生野ノタ
訴外岡林理髮店方ニ伴ヒ寄寓ナシメ西田兄弟
兩名ノ言語ヨリ推察シテ産業防害手段ヲ構ズ可
キヲ豫知シ、實母等ト協議ノ上同所ハ居住、訴外
吉川正セラ招キ事情ヲ明カン被告鶴橋警察署
ニ出頭、無欺者ニ對シテ豫戒令執行方ヲ懇請セ
シメ大阪府令娼妓取締規則執行方第十項ノ

発動ヲ被告鶴橋警署署長ニ求メタリ。

(ハ) 原告ハ訴外岡嘉太郎並ニ安貞母、産業本人

千鶴子ニ名ニ對シ西田幸三郎等ノ交渉願未

ラ詮シ

西田幸三郎ニ面接シテ遺リテハ如何ト告ケ

タルモ千鶴子ハ頑トシテ應セズ拒否ヲ續ケツ、ア

リタリ、以テ折原告ヲ三度訪問シテ自宅ニ不在

ナリシ爲メ原告カ安貞母宅ニ居ルヲ感知シタル西

田等ハ該岡林理髮店方自働車ニテ乗付ケ

西人無遠慮ニ奥ノ間ニ侵入セントセシハ該西

田等ハ此レヨリ先ニ十六日午前三時トイフ夜蔭ニ

池田千鶴子ヲ岡岡林方ニ尋ネ来リ一夜ヲ明カン

市業印

老

去去リ翌ニ七日ハ近隣ニ監視ノ者ヲ張り込マシ

同日夜ニ至リテハ岡林嘉太郎ノ身辺ニ追隨セシメ

如キ不穩ノ行動セシ事實モ有リ又西田等ノ舉

動カ何事カ危険ヲ思ハスヨリ同人等ニ對シ座

敷ニ上ルヲ拒イヤ又又西田幸三郎ハ偉猛高トナリ

以テヤレタ事ヲ云フト爲メニナラズ以此ノ西田ハ

皆メラレヌ也等不穩ノ言ヲ以テ應酬シ

陰悪ナル空気がトナリテ西人如何ナル乱暴ニ

ホルヤ計リ難ク感じタレバ原告ハ西人ヲ宥メ

原告ノ自宅マデ引返エラシタリ而シテ池田

千鶴子ハ飢マテ面接ヲ拒絶スル旨ヲ告ケルヤ

西人原告ガ池田千鶴子ヲ安貞母ノ岡林理髮店

方ニ連レ行キタルハ不都合ナリト難詰シ、口實
ヲ設ケテ呼ビ出シテ吳レト要求センモ原告之
ニ應セザレバ不服ノ態ニテ立去リタリ

(九) 一旦立去リタル前記西田兩名ハ更ニ同日午後
五時頃原告宅ヲ五度目ノ訪問ラセリ

西田幸三郎曰ク

「京都ノ同業者等ニ對シテモ、女ヲ連レテ帰ラ
ネバ面目無イ次オテドウテモ連レテ帰ラネバ
ナリマセン、デ名前ハ申セマセンガ、然ル人ニ總テ相談
シテ居ルノデスガ、其人ノ申スハ(貴殿ガ無産
黨ナゾニ関係ノ深イ人)ダト談職タトカク
ビギリ、ダトカ、面刺ガ起ルト困ルカラ)是非貴

亦業印

殿ニ會ヒ諒解ノ上ナレバ方法ヲ構ジテモト云フ
ノデス、誠ニ恐縮デスガ是非某ニ會ヒ往ッ
テ懇シイノデス」ト懇願的能心度ニテ申出
テタレ共

原告ハ「僕ニ會ヒ度イトイフナレバ其人ニ来テ
貰ッテ呉レ氏名モ云ヘヌ人ニ僕カラ會ヒハ行
ケヌ旨答シモ尚西人彼レ此レ陳辨シタルモ拒絶
スルト兩名ハ一寸失禮シマスト告ゲ階下マデ申座
シテ赴キ何事カ協議シテ在リシガ再ビ原告
ノ居間ニ上リ来タリ

西田幸三郎曰ク

先方が何ト云フカ一應弟が聞キニ行キ

ミスソレデモ時間程私ヲ以て待テ待テ
シテ呉レ止 告ゲ弟西田峰太郎ハ何レ
ニカ赴キタリ。

斯クテ約モ時間余リ経テ西田幸三郎ハ
弟ノ運キヲ案ジテ風ニテ帰リ仕度ラシツハ
改マリテ

西田幸三郎ヨク

今話シテ事ハ絶對秘密ニシテ呉レ止ト
クドトシク念ヲ押シテ在テ時頃立去リタリ。

(十) 原告ハ前記ノ如キ西田等ノ言語ヨリ推察
シテ彼等ハ或ハ下級警官署員ト情實ヲ
結ビテ池田千鶴子ノ娼妓産業ノ申請ヲ何等

地印

或る事

所ハ策動ニ出ソル様態ヲ察知シ一科ノ憂慮
ニ襲ハル。果セル哉 此時既ニ西田幸三郎ハ左
ノ訴外ニ名

大阪市西成区海道町五番地

松立探偵白鳳社主任

元大阪府警部補

梅 某

元某署防犯部長

須藤昇之助

ヲ竹籠落シ居リテ西田幸三郎ハ池田千鶴子ノ
身極誘去ノ便宜ノ為メ前日九月二十九日京都
ヨリ連行シタル訴外織田四市ノ母親ヲシテ全人
ノ家出人保護願ヲ大阪府天王寺敬言寮工提去
為サシメ訴外ノ

全署 防犯刑事

池田 某

岡林理髪店方ニ池田千鶴子ト共ニ寄寓中ノ
 織田四市ヲ行正検束ニ赴クニ際シ該兩名ハ同
 行シ恰モ警察署員ノ如ク態度ヲ装ホヒ家人
 ガ呆然自失シ居ルヲ尻目ニ防犯刑事池田某
 ト須藤昇之助ハ無断奥ノ間ニ入り續イテ
 ニ階座敷ニ侵入シ 娼妓産業申請中ノ池田
 千鶴子ハ織田四市ニ對スル参考人ト稱シ連行
 ラ求メツ、アリシ折板外出先ヨリ帰宅セル理髪
 店主ノ岡林嘉太郎ガ

「實母ノ家ニ保護中デアル池田千鶴子ニ不都合
 ハ無シ絶對渡サズ」

姓頭印

240

ト強調スレバ刑事池田某ハ前言ヲ辭シ女ニ用ハ
 無シト織田四市ノミ連行シタリ池田刑事ガ去リ
 名後須藤昇之助ハ穩健ナル態度ニナリ

「自分等ハ統テ合法的ニ勤ク者デアル付テハ
 樓主ヨリ頼マレテ居ルカ池田千鶴子ノ問題ヲ
 円満ニ詰ラ仕度イ」

ト申去タレ共居合シタル者正セガ委任状ノ有無ヲ
 質センニ所持セザリシ爲メ後日再會ヲ約シテ退
 去セリ

以上ハ刑事池田某ガ該兩名ノ者ニ情ヲ知リテ便
 宜ヲ與ヘタル否ヤ分明ナラザルモ該兩名ノ者ハ該
 池田刑事ガ織田四市ヲ檢束連行ノドサクサニ乗ジ

テ娼妓池田千鶴子ノ廢業防害乃至ハ身取略手ノ舉ニ去テトラ未遂ニ了リシモノナリ

(土)

昭和十年十月二日 原告ガ哈度實母方ノ岡林理髮店ノ店ノ間ニ居合シタル折 所轄大阪府鶴橋警察署署生野町派去所詰巡查某 權主ノ西田幸三郎、西田峰太郎、山脇淳三、三名ト入り来リ、巡查某ハ『階誰レカ居レドウウ』ト詰問シ岡林義郎ハ『妻ノ娘ガ居マス』ト答エルヤ 巡查某ハ『用ガ有レ交番所マテ連レテ行ク』ト語氣荒ク連行ヲ求メレバ訴外三名ハ之ニ和シ西田幸三郎、山脇淳三ハ

曰ク『人間泥棒早クセラ去セ』云々ト罵詈

効強印

老々持

雜言ヲ加工實母付~~ヲ~~池田千鶴子ヲ一先ヅ派去所工連行シ更ニ~~ハ~~鶴橋警察署エ連行ハ勒警部補某ニ引渡シタリ 警部補某ハ池田千鶴子ノ經歷ヲ形式的ニ聴キ取り 同人ガ廢業申請中ノ事由ヲ速ブルモ其内容ニ関シテハ觸ルハ降ケ該警部補ハ『借金ヲ今直グ拂ハナクテハナラン』ト強調シ、傍ヲヨリ實母幾衛意見ヲ陳ベントス

警部補ハ『前ハ何モ云フ權利ハ無ク玉子ヲ生シ

ガ大ケテ規ノ權利ガ有ルカ』ト難詰

シ權主代理ノ西田幸三郎、山脇淳三等ノ意見ハ易カトシテ取上ケ

老々持

警部補ハ自由ランタケレバ直ノ借金ヲ拂ソタラ良イ

テハ無イカ金ヲ拂ハスンテ勝手ラスルハ悪

ト權主西田幸三郎ヲ暗ニ擁護シ、西田幸三郎等ハ

傍ヲヨリ池田千鶴子ニ京都エ帰ル様説得ラ度ス

千鶴子ハ頑強ニ之ヲ拒ミ泣キテ再ビ娼妓稼業ニ就

クハ嫌メナレバ京都エハ帰ラヌ旨ヲ答エルノミニテ

波レ比レシ時同ヲ經過シ午台四時頃トナリ遂ニ該

警部補モ面倒トナリタル可シ

警部補ハ帰レトモ又運レテ行ケトモ云ハヌカラ

お前達双方話シ合ツテ良イ様ニセヨ

ト告ゲ退場セリ斯クテ末合シタル岡林嘉太郎

織田四市、安貞母幾衛ノ三名ト權主側西田幸

地獄印

三郎、西田峰太郎、小腸淳三、双方同署公倉前テ
意見ノ交換ヲ為シタルモ決セズ

本人千鶴子ハ「死ンデモ帰ルル嫌ヤ」ト告ゲ、千鶴子

ハ長時間ニ渉ル紛議ニ就キテ一人ヲラノト同署

ハ外ニ立去テタリ

(五) 原告ハ多年ノ娼娼運動ノ経験ヨリ娼妓自由

廢業ニ於ケル權主側ノ悪手段ハ知悉シ居リ彼

等ハ種々ノ口実ヲ設ケ妨害手段トシテ本人ガ着テ

去テ依頼ガ權主物件テ有ツタリシタ場合ハ時トシテ

窃盗ノ告訴ヲ爲シ、或ハ前借詐欺、誘拐等ノ告

訴ヲ官署ニ提出シテ免モアレ本人ヲ寄寓中ノ

家屋以ヨリ警察案エ出頭スルノ余儀ナカラシメ其

表は接
ききき

帰宅ヲ擁シテ用意ノ自動車ト無頼ノ徒輩ヲ待
 ケ構エサセ搔拂去ルヲ常トスルナリ。故ニ此場合
 モ其虞レ在レバ原告ノ同ガ署ハ在レ中該橋
 橋警察署署ノ附近ヲ警告シテ在リタリ
 (十三)
 午後四時半頃西田峰太郎一人署外ニ出デ半丁
 東ヲ歩キ来リテ自動車(大臺、貳貳九號)ヲ呼ビ
 暫ク助手ト何事カ耳打シテアリシハ該
 自動車ヲ署ノ前ガ向ヒニ西向ニ待タセ置キ
 再々署内ニ入ラレタリ。
 ンレヨリ約ニ分程経テ署ハヨリ前記十二項末
 記ノ如ク力ニテ池田千鶴子一人ヲラクト署ノ外ニ
 立去デタリ。

録印

之ヲ見タ山脇博三直グ續イテ立去デ千鶴子ノ肩越
 シニ左手ヲ後方ニ廻シ何事カ囁ク恰好ニ見エタル折續
 イテ立去デタル西田峰太郎ハ右手ヲ高ク舉ゲ向テ側
 ニ待機ノ自動車ニ合圖セリ該自動車ノ前ニ迂リ行
 ク時俄然千鶴子ハ
 『誰レカ来テ呉レエー』ト絶叫シタリ。
 西田峰太郎、山脇博三、兩名ニ拘カレモガキツ、モ該自
 動車ハ入リタリ該兩名運轉手ニ向ツテ頻リニ発車
 ラ余令シ居タリ。此ノ動作ハ原告ガ約半丁西方ヨリハ
 前ノ自動車前ニ馳ケ付ケル瞬間ナリ。此レト等シク
 千鶴子ノ絶叫ヲ聽キ付ケ真先キニ織田四市、怪心
 去デ、来リ續イテ寶貴母、岡林、西田幸三郎、同時ニ

立去デナリ 織田田中ハ既ニ西田峰右郎ハ脇持ニ
兩名ガ千鶴子ヲ抱エテ車内ニ在リ発車ヲ命ジ靡
ヲ閉メントスルニ間ニ合ヒ車内ニ上半身ヲ入レ之ヲ
サエギリ千鶴子救助ニ努ム

此ノ現場ヲ目撃シタル岡林嘉右郎ガ公證ニ居合
ス署員ニ救助ヲ求メタルノト門外ノ騒然ヲ知リテ自
発的ニ立去テタル署員ニヨリテ止ムヲ得タリ

当初ヨリ横柄ヲ目撃シタル原告ガ現場ヨリ考ヘル
ニ西田峰右郎ハ脇持ニ在リテ発車ヲ急グラ該
自動車ノ運轉手及助手ガ共車外ニ在リテ「女」ノ
泣キ叫ブト現場ヲ目撃シテ之ニ呆然見入り五ニ
顔見合セテ拱手ニ居タル處ニ遂ニ樓主等ノ池田

鑑定印

千鶴子路手誘拐ノ目的ハ完全ニ失敗未遂ニ了リタル
ナリ。

由) 斯クテ一回再ヒ署内ニ入り主トシテ当直情報係リ
部長前外田中某双方ノ意見ヲ聴取シ斡施ニ努
メリ之又長時間ニ渉リ夜ニ入ル

原告ハ如何ナル結果ニ落着スルヤト案ジツ尚署
外ニ伴ツ中岡林嘉太郎署外ニ出テ来リ原告ニ對シ
岡林曰ク「君も困ッテ極言察官ハ直ぐ借金を返せとい

ハレ樓主の方ハ極言察官ハ借金を拂イ
貰へぬハ本人を連れて行くので呉れと頼む
ハ極言察官ハ直ぐ借金を拂へと云ふ何
所私と母親が一應委シテ引取らせて呉れと

云々も諾き入れぬ旨嘆息シテ原告ニ語
リタリ

(十五) 原告ハ始終ヲ聞キ鶴橋署員ノ態度ガ債務カニ
ヨリ人權ヲ拘束スベキ西田幸三郎等ニ偏重シタル
處置ニ非サルヲト意外ノ感ニ打タレコレハナラヌ直チ
ニ東合シタル自働車ヲ呼ビテ原告知人タル訴外
大阪市天王寺区茶臼山町居住

辯護士 栗須 一氏ヲ自宅ニ訪リ
簡單ニ事情ヲ述ベ該鶴橋署員エ未頭シテ立會ヒ
テ貫ク而シテ原告ノ復代理トシテ
与應事件ヲ委シテ終シト樓主側ノ西田
幸三郎等ニ申出テタルモ、又西田等ハ信用未

地印

老舊

又ト言下ニ拒絶ス、斯クテハ何時果テルトモ分明セザ
レバ、債務ニ依リテ人權ノ拘束スベキ理ノ不法ヲ陳ハ
因林、織田、安貞母等ニ對シ引揚ク可シト言明
シ一同署員ニシテノ挨拶帰宅セントスル後ヨリ
續イテ池田千鶴子ハ同辯護士並ニ安貞母等
ニ尾イテ無事帰宅スルヲ得タリ。
時ニ午後十時頃ナリキ此日正午生野所派出所
巡査某ガ西田等樓主側ノ者ト池田千鶴子ヲ
連行シタル時ヨリ昼食夜食ヲセズ約十時間ノ長キ
ニ涉リテ同様ヲ繰返シ此間自登公認廢業申
請中ノ娼妓池田千鶴子ヲ暴行行為ヲ以テ略
取誘拐セントスル現行犯トモ云フベキ浩劇ヲ演

シタリ

(支) 原告ハ右事實ニ付テ鶴橋警察署署員ガ乱暴シ
樓主側代理西田幸三郎、西田峰吉郎、等ヲ比責
シタルノミニテ黙過シタル態度ヨリ推シテ被告鶴橋
警察署署長ガ部内ノ保安ヲ完フシ得ルヤ否ヤ、
義疑ヲ懷クニ至リ

(志) 訴外吉川正七ハ池田千鶴子ガ無事帰宅ラ
得タルトイハ共樓主側西田幸三郎等ガ其係本
人ヲ放棄スルキニ非スラ察知シ事態ノ険悪ヲ憂
ヒ双方内滿解決方ニ付テ調滞ノ帶ヲ取ル爲メ
大阪市西成区海邊町五番地
松立探偵社自風社

巻頭印

柵 某 オニ

赴キ西田幸三郎、小脇淳三等ト會見シタル上内滿
解決方ニ付テ折渉ヲ重ネシモ、西田等ハ本人池田
千鶴子ヲ京都樓主方エ運行スル当初ノ目的意
外他説ニ再ヲ籍サズ

而シテ傍ラヨリ小脇淳三ハ吉川正七ニ對シ一葉ノ
名刺ヲ去シツ、

且「此ノ名刺ハ自分ト同郷ノ高知縣出身ノ大阪
府八尾警察署署長ナリ 自分モ元高知
縣ニ於テ巡査拜命中當時同寮タリ、特ニ
此ノ通り鶴橋警察署署員エ本件(池田千
鶴子取戻)ニ付テ宣敷頼ト添書ヲ

世貫ッテ来テ居ルノダ』去々ト云ヒ乍ラ該
名刺ヲ差示シタレバ吉川正七が筆ニ取り之ヲ何心ナク
觀レバ

何事ヲ指シテ『宣敷頼』ト記入セル

大阪府八尾警察署長ノ官名記載ノ

名刺ヲ以テ踏橋警察署員ニ宛テシ

腸停ニテ紹介スル名刺タリシヲ確メタリ。

以上ノ事實實ハ吉川正七現在ニ証言スル所ナリ。

(六) 然レテ吉川正七が前記ノ如ク田滿奔走中ニモ抱
ワス西田幸三郎等ハ及ワテ

大阪市東成区北生駒巷丁目

理髮職 渡辺 夫則

敬告印

大阪市天王寺区勝山通居住

自稱新聞社員

土田 茂代 造

及渡辺夫則ノ配下ニ名ヲ一味ニ加エ何事ヲ策動ノ
模様ニテ田滿解決ノ望ミ無キト察カニ池田平
鶴子ノ意思ヲ確メタルニ益々度業ノ決意固ク
調滞不能ヲ推察シテ交渉折却タル旨ヲ原告
ニ告ゲタリ

(七) 昭和十年十二月大阪市ノ防空演習燈火管制ノ

夜ノ如キハ池田平鶴子保護中ノ實母宅附近ヲ
氏名不詳ノ者等(三名連シ)徘徊シ屋内ヲ窺フ
等ノ事實アリ 池田平鶴子ニ於テハ不安ヲ感

一歩モ外去ラセズ戦々恐々ノ思ヒニテ只官被
 告七條敬言察署署長ニ提出ノ廢業申請ニ基キ
 娼妓タルノ登録名簿ヨリ削除ノ完了サルヲ待
 ケ居リタルナリ

原告モ又代理人トシテ池田千鶴ノ法律上ノ準
 備並ニ諸般ノ届去ラ爲シタレバ被告七條敬言察
 署長ガ遲滞ナク池田千鶴子ノ登録ヲ削除シ
 樓主後田ノミカ西田幸三郎ラシテ斯レ不穩極
 マル擅カノ防衛手段ヲ封鎖サルヲ只管侍居タリ
 然ルニ昭和十年十月十四日午後七時遂ニ後田ノ
 ノ情夫西田幸三郎及西田峰太郎ノ指揮ノ下ニ
 事都布下市七條敬言地貸座敷同業組合

地印

288

事都布下市

事務所内	梅	某
事務員	梅	某
京都市下市七條敬言地内		
貸座敷同業者	西	某
徳島縣徳島市會所前事務所前		
自稱特用記者	山	某
大坂市東成区北生野町老下自居住		
理髮職	渡	則
渡辺夫則既下代名不詳外ニ名		
西田幸三郎既下代名不詳外ニ名		

以上十名計畫的ニ大坂市因林理髮店方ノ家屋
 内ニ乱入シ營業妨害ヲ打傷害暴力行爲

ノ限リテ盡シ公然民衆ノ目撃ヲ擧げ裡ヲ自動車
(大ニ七〇八号)ニテ池田千鶴子ノ意思ニ及シテ
身柄奪取後田ノミ方ニ誘拐レ完全ニ

内務省令娼妓取締規則第六條ノ
違反ノ所業ニ出テタリ

右事實ノ内容顯未ハ被害者岡林嘉太郎ヨリ
弁護士織田熊吉ヲ代理人トレ當該大改
区裁判所検事局ニ告訴手續中ナレバ
之ヲ略ス

(三)

右事實記載ノ諸点ニ依而明カナル如ク

被告鷗橋樞言察署長ハ署員ヲシテ畜奴樓主
ノ利益ヲ尊重シテ法律ヲ輕視シ保安ヲ完フ

魁印

セカリシ為メ西田幸三郎一味ガ原告ノ代理權ヲ蹂躪
スル所業ニ出ツルヲ抑止シ得サリシナリ。

被告ハ尾坂言察署長ハ威權ヲ乱用シ醜類
鬼畜ノ樓主ノ手先山脇淳三ノ不法行為ヲ援助
シ原告ノ代理權ヲ蹂躪シタリ。

被告七條言察署長ハ原告ガ代理權ヲ以テ
池田千鶴子ノ廢業ニ関シ最モ合法的且機宜
ヲ得タル方法ヨリ提出シタル申請書ヲ受理シテ
徒ニ娼妓名簿削除ノ完了ヲ遷延シタルバ樓主
後田ソミガ情夫西田幸三郎其他ヲシテ下級警察
署員ト情実ヲ結ビ原告ニ對シ強談威迫ヲ爲シ
或ハ徒黨ヲ組ミ暴力行爲ヲ敢テ爲シ池田千鶴子

ノ人権ヲ蹂躪シ国法ヲ無視シ擅ナル振舞ヒニ
ヨリ原告ハ代理權ヲ完全ニ蹂躪シ娼妓取締規
則才六條違反ヲ敢行スルノ機會ヲ與ヘタリ。
被告右三名ガ職務怠慢ヨリ原告ガ人道上ニ
立脚シ、公序良俗ニ合致スル代理行為ヲ破壊シ
タルハ被告大政府知事及被告京都府知事が
監督ヲ完行セサルニヨルナリ。

近時公娼制度ハ政府ノ許サバル後ナリトシテ
内務省官吏之ガ廢止ヲ具體的ニ準備スル秋ニ當リ
今尚地方警察署員中畜奴權主ト意ヲ通ジ或ハ
其膝下ニ羅維拜ヒテ樓主等ノ利益ヲ尊重シ娼妓
自ラ廢業ヲ願出ルニ對シテ取調ベ若クハ説諭

監製印

高尾直文

ニ名ヲ籍リ避レテ廢業ナサントスル窮鳥ヲ、再ビ
籠中ニ投ズ之即舊態依然タル奴隸制度ノ推
持タリ我國ニ娼妓取締規則アル限り内務大臣ハ其
主旨勵行ヲ完行セシメルノ責任者タルナリ。

然ルニ被告内務大臣後藤文夫ハ官吏職務規律
第一條及第十六條ヲ憚台心シ其主旨勵行ヲ完行
セカザリシ爲メ原告ハ代理行為ノ權限ヲ破壞サ
レルニ至リシナリ

依茲ニ本訴及提起候

據 証 方 法

一、 甲第一號証ヲ以テ娼妓池田千鶴子ガ原告ニ對シ
代理權ヲ授與シタルヲ立証ス

一、甲第二號証及甲第三號証ニヨリ 池田千鶴子が
 被告七條警察署長ニ對シ娼妓後業廢業ノ
 意思表示ヲ爲シタルヲ立証ス
 一、甲第四號証及甲第五號証ニヨリ原告が最モ
 合法的ニ且ツ機宜ノ方法ニヨリ代理權ニ基キ
 意思表示ヲ爲シタルヲ立証ス

添附書類

- 一、甲第一號証字 尙通
- 一、甲第二號証字 尙通
- 一、右配達証明書字 尙通
- 一、甲第三號証字 尙通
- 一、右配達証明書字 尙通

監印

- 一、甲第四號証字 尙通
- 一、甲第五號証字 尙通
- 一、右配達証明書字 尙通
- 一、池田千鶴子之略歴及境遇書 尙通
- 以上

昭和十年十月二十六日

右 金井鐵之助

大及区裁判所

形中

事務所

甲第一號証書

委任狀 贈与

日	入
本	札
政	封
本	封
府	封
銀	封
封	封

今般金井鉄之助殿ヲ代理人ト定メ左ノ
 權限ヲ委任ス

私儀

一 娼妓稼業廢業ニ関シ法規ニ基ク諸
 般ノ手續及法律上ノ準備行爲ノ件

一 東京都下京区七條新地南屋町幸樓後
 田ノミ方所在ノ自己所有不動産処分
 件

一 前記事件ニ関シ債權債務ヲ清算シ
 相手方ト辯償方法ノ交渉並ニ締結ス

鑑印

ル件

一複代理人選定件

在事受付受任者代理權ヲ授與ス

昭和十年九月十五日

右

池田千鶴子

印

(但本人署名捺印押印ス)

赤業印

283

甲第二號証書

娼妓稼業廢業ニ付登録名簿前除方之申請

本籍

徳島縣徳島市堀裏町字土手外

四拾四番地一拾号

現居所

大阪市天王区此河堀町一三番地

金井鐵之助方

主其續極

方主

氏名

池田千鶴子

生年月日

大正元年参月拾八日生

廢業申請之趣旨

松儀

京都市右京区七條物地蘭花所章程奉後田
ノミカヲ於テ姓名市丸ト名乗リ娼妓稼業

致し居り奉る事 本日限り廢業致し度奉
二付 娼妓名簿之申削除相成度此段申請
仕り奉る也

御下附ノ娼妓廢業 鑑札許可証ハ紛失致シ
タルモノカ目下奉元ニ無之發見ニ努ム居り奉るハ
何レ發見次第直チニ御返納イタス可矣條此
儀特ニ申添エ候

私ノ廢業致シマスノハ織田四ノナル者ト夫婦
トナリ内滿ナル家建ヲ造リ度イカラデス
織田四ノハ滿洲ヲ軍功ヲタテ勳章ヲ戴イタ
心ノ正シイ人デスオモハ真実ニ好キ合フ件デス
私ハ織田四ノノ外ニハオモテ取ル事ハ死シテモ

事業印

284

事業印

織田四ノナル者ト夫婦トナリ内滿ナル家建ヲ造リ度イカラデス
織田四ノハ滿洲ヲ軍功ヲタテ勳章ヲ戴イタ
心ノ正シイ人デスオモハ真実ニ好キ合フ件デス
私ハ織田四ノノ外ニハオモテ取ル事ハ死シテモ
夫婦トナレハ立派ナ家建ヲ造リ正シイ
生活ヲ心掛ケマス 教育勸諭ノオモシク從ヒマス
身モ心モ修メテ行ク決心デス
之ガ廢業ノ事目テアリマス
娼妓取締規則ニ從ヒ御署エ出頭致シマスガ
本意デスガ遠隔地ニ居住致スコトナリマシタト
御署エ出頭ノ途中私ノ廢業行方ヲ妨害サ
レル虞ハナク相成メマス
尚私ノ廢業致シマスニ付テ法律上準備

借金があまる様子は心が暗くなる所かりです
 年が明いても別借が残った為又年継きも
 して稼業をいそいで人達の身の上を考へ
 るとおぼ心配を幸橋が出来る迄なつたので
 あり。 明輩の中にも可愛っていい
 ためにさぞお腹痛い事と仰ります
 廢業させていたいきさつは理由は極言察果
 長様に嘘をちかつかし届けてあり
 之れゆゑにたとへ勝手には廢業させていた
 様になりすすも借りてある金子は「なるに
 拂へませんが必ず眞面目な暮しをして
 をとへ平内職をしてマシクならい働さすべし

事業印

志望書

お佛のいり行く覚悟あり
 之れに付きすすくお佛にする方法の交渉を
 取締めて大坂市天王寺区其河堰所一ニニ番地
 金井鋤之助様に依頼ししあり 総てり
 松の事は其の方が代理として扱ひます故
 松と思ひお送り程重幾重なるもお願いは
 与りませし
 先は取急ぎおわびの方々に通知あり
 かしこ
 昭和十年九月二十六日
 大坂市天王寺区其河堰所一ニニ番地
 金井鋤之助方

配送證明書表

郵便物 宛取 名宿	京都府七條市 幸樓亭	郵便物 宛取 名宿	京都府七條市 幸樓亭
郵便物 宛取 名宿	後田	郵便物 宛取 名宿	後田
郵便物 宛取 名宿	七條郵便局	郵便物 宛取 名宿	七條郵便局
郵便物 宛取 名宿	七條郵便局	郵便物 宛取 名宿	七條郵便局

前記郵便物の年月日配送票を添付し

七條郵便局

10.9.26

池田千鶴子 署名花押

京都府七條市他南座所
幸樓亭 後田ノ様

三件

当座添へた之存ト申す少は此ノ頃私リ體も
たんとあはれんも知つてり通リ病氣の明
ち不働之カがエラクナリ申上 返つて損
害ノもナリ申す 知テ政何処申上 諸解
ノ程宜々御上申上

本郵便物は昭和九年九月二十三日第三八号
書留内書證明郵便として差出たものと認め

天五寺郵便局

10.9.26

事業印

287

既証明書字

裏

大阪市天王寺区北河堀町一三三

金井鉄之助

池田千鶴子殿

通信事務

288

甲第四號証字

御用書

大阪市天王寺区北河堀町一三三

金井鉄之助

拜啓昨夜貴署管内タル京都市古布区七條
新地南所幸様事後田ノミカ格娼妓タリシ
妓名市北事池田千鶴子儀拙者宅ニ来タリ
自己ノ娼妓稼業中事由ヲ述バ獲業ノ意
志ヲ以テ家去シ来タル旨ヲ打明シ身ノ振
方ニ付テモ助カ方懇請有之矣

加フルニ同道ノ織田四一ナル青年トハ半年
ニ渉ル期ホテテ将来ヲ深ク誓ヒツアル由
既ニ兩人共奔ニ当リテモ女ト身ノ病弱ヲ憐ミ

表

男ハ物質的破産ヲ思ヒ心中行ラ決意セルモ
、此ク特ニ西人の死ニテ乎前ニテバ取敢ズ
届出人ニ於テ保護ノ運心ヲ致ス

元来届出人ハ宗教上ノ信念及社会正義ノ
觀念ニ基キ公娼廢止ヲ希望シテ数年前ヨリ
之ハ廢止運動ヲ續ケ坐位ノ傍ヲ著述ニ口實ニ
當ニ熱意ヲ以テ終始致居ル者ニテハハ陸ツテ
今圓池田平鶴子ノ長願ヲ容レ委任在リタル
ニ付キ娼妓稼業廢業ニ關スル諸般ノ手續及
法律上ノ準備代理應擔致可矣

尚池田平鶴子對抱立後田ノミ當事者同
ノ債務關係ニ付テモ届出人ヨリ返済方法ノ交渉

亦業印

ニ及信念ニ矣

附記

實者ニ於テ池田平鶴子ニ對スル行政上ノ情
用件有之場合ハ居住地所轄署タル大府府天
王手警察署工要旨御移牒相成度 直轄本人ニ
市用件ノ場合ハ届出人才工御申越被度此段
便宜御届矣也

昭和十年九月二十日

右ノ届出

金井鐵一 印

京都府七條警察署署長殿

甲第五號証書

授仕權ニ基ク通知書中

大坂市天王寺区北河堀町百貳拾參番地

池田千鶴子代理

通知人

金井鐵之助

被通知人

京都市下京区七條新地南原町
後田ソミ

通知之要旨

一 今般被通知人控娼妓タリシ 池田千鶴子通知人
ヲ自宅ニ訪心致シ娼妓稼業廢業方ニ付テ通
知人ニ對シ添附委任状寫 記載ノ代理行爲奉
有之矣

茲ニ民法第三節 意思表示 第九十七條ニ基キ

事業印

授仕權確立ノ爲及通知矣

一 昔上婦セキガ藝娼妓ニナル時ハ其ノ抱士ヨリ号額ノ
金員借受クルヲ通例トス 其場合債務辨濟方
法ハ債務者ニ取リテハ甚ダ偏重ナル條件ヲ含ミ
或ハ後日事故發生ノ備ニ使用スベク白紙委任状
等ヲ取上ゲ置キ法的知識ヲキ婦セキニ不当ヲ強ヒ
ル事アルモ公娼制度ニ於ケル實際ナリ

付テハ池田子鶴子ガ被通知人ニ金員前借セシ際
被通知人ニ於テ同人名捺印ヲセラル白紙委任
状如キヲ交附ナシメ保管セラレルモ計難クモ
該白紙ニ被通知人ガ勝手ニ文言記入シテ使用
セラレル事ハ絶對御断申矣

本業印

尚池田子鶴子ガ被通知人方ニ置キ忘レタル印鑑
及所届動産ヲ勝手ニ使用シ或ハ裏分スル事モ
絶對御断申矣

三 池田子鶴子對被通知人當事者間ニ於レ前借殘金
其他債務辨濟方法目下種々協議中ニ付、池田子
鶴子ノ前借高及執業以來ノ稼業價却高、別借金
等明細承知仕リ度矣ニ付御計算ノ上明細書ヲ至急
通知人手元ニテ御送附相成度比段及通知矣



昭和十年九月二十七日

大坂市天王寺区北河堰所一三三

金 井 鐵 一 助

京都中京区七條北地南彦所

配達證明書表

			
郵便物配達證明書			
要請 前記郵便物ハ 七條郵便局 10.9.27 	受取人住所 七條警察署長	郵便物 書留通常	引受番 天王寺
		引受月日 一〇年九月廿六日	引受番 二一九

幸樓後函ノミ殿

本郵便物ハ昭和十一年九月二十六日第三一九号
 書留通常郵便物ニシテ其ノ引受番ハ
 天王寺郵便局



赤染印

配達證明書字

表

826.01

郵候物配達證明書		引受 局名	引受 番号
特	別記郵便物の届出検査年月日配達との仮	天王寺	三一九
	縣	書留通常	一〇二〇年九月二十七日
	七條郵便	京都七條郵便局	
		後棟	
		田ノ	

10.8.28
10-4

配達證明書字

裏

通信事務

大正市 天王寺区北河堀一丁目
金井 鉄之助
池田 鶴子 殿

配 遠 証 明 書 宗

裏

大坂天正寺北河堀町一三三

金井 銘之 即 敬

通信事務

参考書

略 歴 及 境 遇

原籍

徳島縣徳島市塙裏山字土手外

四十四番地ノ住人

産主

池田千鶴子

当三十三年

右池田千鶴子ハ三才ニテ實父計治ニ死別シ實母余リニ若カリシ爲メ婚家ト協議ノ上実家ニ歸リシ後ハ専ラ祖父女一手ニ養ムレ稱長ジテ山脇淳ニ後見トナリシハ祖父女死セシ爲メナリ

山脇淳ニ後見トナリシモ義務教育終ラト同時ニ藝妓見習トナリ後酌婦トナリテ徳島市内ヲ轉々スナセオテリテ九百島ヤ前借金ヨリ富山

縣ニ身賣シ、昭和七年十九才ニナリ、千四百元也、前
借金ニテ現在ノ京都七條此処、後田ヨシノ方ニ
任替、娼妓稼業ニ執ク、

右ノ前借金ハ悉ク後見人山脇淳三ノ酒色ニ費
消サレタルナリ、山脇淳三ハ素行修マラハル男
ナリト。

前記ノ如ク池田千鶴子ハ上流身、
娼妓トナルニハ娼妓取傭規則ヲ三條五項ニ其基キ
實母ノ承諾ヲ要ス可キヲ詐欺不正ノ徒輩ガ
策謀ニテ虚偽ノ届出ニテ娼妓ト爲ス
實母ハ昭和十年六月漸ク池田千鶴子ガ娼妓
稼業中ナリト事實ヲ知りテ大ニ驚愕セリト。

吉子前記

吉子前記

昭和印

千鶴子娼妓トナリ、爾來四年同人美人ナレバ漂客
類リ、毎月四百元前後、花代金ヲ賣上ゲ、毎年
四千元以上ノ玉代ヲ上テ、満三ヶ年過ケル現在ニ至ルニテ
樓主ノ收得セシ利益金ハ壹万数千元ナル可シ、
而シテ千四百元ノ前借金ハ既ニ皆済サレテ
居ル可キ筈ヲ現在別途債務ヲ併テ八百元ノ
前借金現存スル由
右ノ樓主ト娼妓間ノ經濟關係ニ付テ考慮ヲ
要スル点ナレバ本人ヲ仔細ニ質セシニ樓主惡辣振
リ暴露セリ、同樓ハ娼妓ガ所定ノ檢査ニ疾病
ヲ発見セラレ、存シハ改病院ニ收容サレ休業スル場合
ハ、檢査金トシテ、^{日計}錢宛計上シテ娼妓ノ債務

四半押入ス

ニ附加スルヲ始メトシ、娼妓地^ノ金ト稱スル不吉ノ
 債務附加カレルヲ嫌イ、檢査期日近ク身体ニ故
 障アル模様ヲ知ルヤ、棲主結託シテ、郷里若クバ
 親元ト意ヲ通ジ(親病氣帰レ)等ノ偽リノ電報
 ヲ打電セシメ、同業組合ヲ通ジ、休業帰郷スル
 如キ虚偽ノ届出ヲ以テ、官署ヲ瞞着、表面休業
 中、^一能ヲ繕ヒ、實際ハ稼業ヲ行ハカニ行フト
 而シテ、疾病ニ付テハ市井ノ医師ニ診察受クル
 為メ、医療費常ニ多額ヲ要シ、債務減少ハ困
 難ナリト以テ、池田ヶ鶴子速懐スル安ナリ。
 斯如娼妓所定ノ檢査期日ヲ巧ニ際ケ、疾病ヲ
 隠シテ、稼業ヲ懐リスル脱法行為アリトセバ

知照印

武字訂正
 本行金部
 徳島県
 手付金部
 控帳

所轄七條教養寮署、監督在ルハ有名無実ナリ。
 其社會的影響モ又甚シト云フ可シ
 斯ク池田ヶ鶴子ガ幼少ヨリ、實父母、恩愛ヲ知らズ育
 ナ社會、暗黒面ニ於テ、醜類鬼畜ノ權主ニ^{養育}
 カレカレトナリ、^{養育}實母幾許ハ一方子ヲ養育シ
 徳島縣保安課ニ調査ヲ依頼スレ
 サレツ、アリタリ。
 一方實母幾重ハ之ヲ知らズ、子鶴子ノ所在ヲ尋ネ
 テハ方ニキテ盡シ、^{養育}原籍地ハ元ヨリ
 徳島縣保安課ニ調査ヲ懇請セシ事モアリ
 多年身ノ上ヲ案ジテ暮シ、漸ク本年六月、子鶴子が
 前記七條地ニ於テ、苦悶ニ呻吟スル所在ヲ知り

大阪區裁判所

東京市
内務省
内務大臣 後藤文夫 殿



297-1

吉野訂正

夫岡林嘉太郎ニ伴ハ該後田ソミ方ヲ訪問シ生別
以來二十二年絶ヘラ久キ 涙ノ對面ヲセシナリ。
籠ノ鳥ノ鶴子ニ取リ實母ノ出現ハ甚ク所謂
暇ノ母ニ巡リ會ヒ暗夜ノ海ニ燈ヲ發見セル鬼ヒ
シテ夢見ル心地ニ打タレ又實母聲ヲヤリト
今田池田千鶴子唱後藤業ヲ決意 骨因ノ思愛
モクシ難ク樓主ノ魔手ヲ避レテ實母ノ懷ニ入りシモ
國法ヲ無視シタル樓主ノ手ニ再ビ捕ル
後藤業ノ意思果サレバ再ビ彼等ヲ身ヲ委ネル
ニ至リシ悲慘ナル千鶴子ノ將來ヲ想フ時 肌ニ
粟ノ生ズル鬼ニテ慄然トスルナリ

以上

勅照印